

傍鞍部頭蓋底脳腫瘍に対する extradural temporopolar approach（頭蓋底手技による硬膜外前床突起切除法）を用いた脳腫瘍摘出手術施行患者の長期予後に関する研究 に関するお願いとお知らせ

我々は傍鞍部頭蓋底脳腫瘍患者に対する安全確実な低侵襲手術を確立するために、extradural temporopolar approach（頭蓋底手技による硬膜外前床突起切除）法を採用しています。すなわち、視神経、内頸動脈などの重要な腫瘍近傍の解剖学的構造物の位置を手術早期に把握すべく努めるとともに、視神経管を開放することで視神経の減圧や可動性を得ることができるため視神経に対する障害を最小限に抑制しつつさらに腫瘍病変の裏側を安全確実に処理できるように努めています今回、本方法にて腫瘍摘出術を施行した傍鞍部頭蓋底脳腫瘍患者の神経学的あるいは放射線学的な治療成績に関する検討を行うことを目的としています。傍鞍部頭蓋底脳腫瘍に対して本手術手技を施行した患者の術後の状態を確認することで、本手術の有益性が確認できれば安全確実な非侵襲的な手術法として社会に還元できうるものと考えています。

2009年9月から2016年8月までの7年間に防衛医科大学校脳神経外科学講座にて施行された傍鞍部頭蓋底脳腫瘍患者に対する extradural temporopolar approach 術を施行した患者さんを対象としています。対象となる傍鞍部頭蓋底脳腫瘍は髄膜腫、頭蓋咽頭腫、三叉神経鞘腫です。入院および外来診療録から手術前後の神経学的状態を視力視野障害および神経学的脱落所見などを中心に調べることによって患者の機能状態を検討いたします。また手術前後の脳腫瘍の画像を検討することによって本法による脳腫瘍の摘出率なども検討します。

本臨床研究に参加することによる危険、不快になりうる状態は特にございませぬ。個人情報保護につきましては連結可能匿名化にて公的な発表において個人が特定されることはございませぬ。すなわち、氏名、ID、入院月日、生年月日などはすべて削除して匿名化された状態で管理し、プライバシーは保護された状態になります。本研究は、今後、研究のために患者さんから検体を採取したり投薬をしたりすることはなく、これまでの外来、および入院治療における既存資料などを用いる後方視的研究です。なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても防衛医科大学校病院脳神経外科における診療には全く何の影響もなく、不利益を被ることはありませぬ。

平成29年1月

連絡・照会先、および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2

防衛医科大学校 脳神経外科学講座 大谷直樹

TEL： 04-2995-1511 (内線2354)